

◎主な研究成果のご紹介

◆四季成り性いちごの安定生産のために

【目的】四季成り性いちご「なつあかり」に対する長日処理効果を把握する。  
 【結果】安定多収のための処理方法がわかった。  
 【今後】研修等を通じて生産者・指導者に普及する。



長日処理なし



長日処理あり

※「なつあかり」当年苗の着果状況(2013年8月30日、6月上旬採苗、7月上旬定植)

◆にんにくの品質向上で産地を維持するために

【目的】高品質出荷のために乾燥・貯蔵問題を解決。  
 【結果】間断加熱乾燥※で長期貯蔵後でも高品質を維持できた。また、乾燥・貯蔵のための「にんにくの乾燥チェックリスト」を作成した。  
 【今後】研修等を通じて生産者・指導者に普及する。

※間断加熱処理はテンパリング乾燥とも呼ばれる。



正常りん片

(昼35℃～夜間常温の間断加熱乾燥)



貯蔵障害発生りん片

(35℃連続乾燥、ツヤ減退、くぼみ・変色発生)

◆やまのいも品種「つくなが1号」の増収のために

【目的】催芽処理により切りいもの生育を促進して増収を図る。  
 【結果】10日～2週間ほど生育が促進され2割程度増収できた。  
 【今後】指導参考資料として生産者・指導者に普及する。



催芽後の切りいも



催芽処理

◆もち小麦「もち姫」の高品質生産に向けて

【目的】もち小麦「もち姫」のコンバイン刈取適期を明らかにする。  
 【結果】出穂後積算気温で890～960℃がコンバイン収穫に適期であることを明らかにした。  
 【今後】指導参考資料として生産者・指導者に普及する。



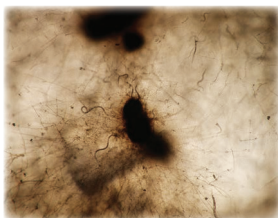
もち小麦「もち姫」



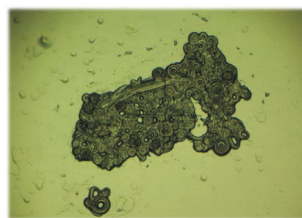
収穫時のもち小麦「もち姫」

◆にんにくの安全・安心な病害虫防除に向けて

【目的】イモグサレセンチュウの効果的な防除方法を開発する。  
 【結果】線虫の餌となるカビの種類や耐久型線虫に変化する条件がわかった。  
 【今後】線虫の生態を解明し防除方法をまとめる。



カビを餌にするイモグサレセンチュウ



耐久型に変化したイモグサレセンチュウ

◆だいこんの効果的なキスジノミハムシ防除に向けて

【目的】キスジノミハムシの効果的な防除体系を確立する。  
 【結果】効果の高い粒剤の処理方法と有効な散布剤が判明した。  
 【今後】粒剤と散布剤を組合せた効果的な防除体系をまとめる。



キスジノミハムシ成虫



だいこん根部の被害

◎その他の試験・研究・調査のご紹介

- ◆ながいも、にんにく、夏秋いちごの栽培技術、新作業、施肥技術等の開発
- ◆ながいも、にんにくの品質低下要因解明と抑制技術の開発

- ◆ながいも、にんにく、イチゴ等の優良品種の開発
- ◆野菜の新農薬・生育調節剤の開発
- ◆ながいも、にんにく、小麦、大豆の作況調査